

オプション・ツアーバスの移動円滑性 に関する調査・分析

宮内 弘太・高田 和幸

¹学生会員 東京電機大学大学院 建築・都市環境学専攻 (〒350-0394 埼玉県比企郡鳩山町石坂)

²正会員 東京電機大学理工学部教授 建築・都市環境学系 (〒350-0394 埼玉県比企郡鳩山町石坂)

E-mail:takada@g.dendai.ac.jp

米国・欧州で先行したクルーズ・ブームは、今日アジアに波及しつつある。わが国においても、クルーズ船客の立ち寄りによる地域活性化が着目され、消費活動による経済波及効果に期待が寄せられている。一方、クルーズ船社は、寄航時にエクスカージョンをオプション・ツアーとして販売し、多くの船客が参加している。なお通常の観光バスと異なり、クルーズ船は出航時刻が決まっており、通常の観光バスに比べて時間厳守性が高く求められている。そのため観光バスよりも、移動時の余裕時間を長く確保したり、また訪問地での滞在時間を短くしているのではないかと推察される。

そこで本研究では、クルーズ船客向けのオプション・ツアーに着目し、観光バスとの旅程の相違を検証するとともに、GPSデータを用いてツアーバスの移動円滑性の検証を行なった。

Key Words : *cruise, optional tour, itinerary, smoothnes of travel*

1. はじめに

近年外国のクルーズブームの影響により新たなクルーズ市場としてアジアが注目を集めている。もちろん日本もその内の1つであり日本の有数の港には巨大なクルーズ船が寄港することも不思議ではない。そんな船が寄港している間の中で、いかに日本の文化を知ってもらうか、体験してもらうか、そういった事に焦点を当てたのがオプション・バスツアーである。クルーズ船が次の港へ出発するまでの間はクルーズ船乗客者は各々自由行動となるが、そんな自由時間を有意義に使ってもらおうとバスツアー会社はツアーの日程を考える。しかしながら出航の時間は決まっているため、確実に時間内に帰港する事が要求される。そういった状況のためオプション・ツアーバスの移動を円滑にするといった事が問題となっている。オプション・ツアーバスの利用者は慣れていない国での旅行であり不慣れなことも多いかもしれない。しかしそんな状況のなかでいかにオプション・バスツアーの利用者を満足させ、ツアー工程を円滑に進めればいいのか、本研究は移動時間に焦点を当てて調査・分析を行いたいと思う。

既往研究は現在クルーズに関する研究はされてきているが、オプションツアーに関しては今現在

未だ行われていない。そういった状況の中で今回の研究が今後のオプション・バスツアーに関する研究の参考になればと思う。外国の事例ではオプション・バスツアーのバスが渋滞に巻き込まれてしまい身動きが出来ない状態になってしまったという事例もあるという。

本研究では初めにオプション・バスツアーを利用した人にバスツアーの満足度を調査をして、問題として浮き彫りになったバスでの移動時間に焦点を当てて、実際にバスの走行速度を計測した。さらに最後にツアーバス会社は移動時間をどれくらい余裕に見積もっているのかを調べた。

2. 調査の概要と結果・考察

オプション・ツアーバスの移動円滑性を図るためにまず初めにツアーバスを利用した外国人利用者のツアーバスの満足度を調査するためのアンケートを実施した。アンケートの概要として7月20日、9月21日のダイヤモンドプリンセス号が金沢港に寄港した際に配布したものである。表-1、図-1に満足度調査の結果を示す。概ね多くの外国人がオプション・バスツアーに対して満足しているように見えるが割合にしてみると、満足度5をつけた人

は半数ほどしかいない事が分かる. この事からより多くの利用者が満足するためには, 移動の際の円滑性が求められているのではと思われる.

本研究ではオプション・ツアーバスでの移動円滑性を図るためにバスが港から発車をする際, 目的地に到着した際, 次の目的地へ出発する際, 港へ帰港する際のバスの走行速度はどれくらいなのかという事に着目してみた. バスの走行速度を計測するためにGPSロガーを用いて計測を行った. また運転手には走行速度を計測してる事は告げずに計測を行った. 計測を行ったオプション・バスツアーは金沢港から発車をするバスツアーでツアー内容としては, スタートが金沢港で最初に福井県にある永平寺へ向かい, 昼食は永平寺付近の場所で食事をし, 次に同じく福井県内にある東尋坊へ向かい最後に金沢港へ寄港するといったツアー内容である. 今回の調査では金沢港を出発してから永平寺へ到着までで一回目の計測, 次に東尋坊を出発してから金沢港へ帰港までで二回目の計測を行った. 計測したルートを図-2, 図-3に示す.

続いて実際に計測した結果を図-4, 図-5に示す. GPSロガーを用いた走行速度の計測は1分おきに計測をするようにしてある. どちらも共通して言えるのは高速道路の走行区間は安定して走行が出来ているのに対して, 出発や到着付近になると不安定な走行状況になっていることが図から読み取れる. 考えれる事としては観光地の付近に近づくにつれて一般道路の混雑度が増しているのではないかと考えられる. 他のツアーバスや一般観光客も来るためであるかと思われる. つまりツアーバスの移動円滑性というのは, 他のバスツアー客や一般観光客の影響も大きいのではないかと考えられる. 観光地付近での交通の流動を円滑にするためには新しい道路を造ることにより観光地へのアクセスを増やすことがハード面での対策ではないかと思われる. またソフト面での対策としては降車の時間を短くしたりといった他人を思いあつた行動が必要なのではないかとと思われる.

表-1 満足度調査の各項目ごとによる割合

満足度	1	2	3	4	5
バスツアーの満足度	0%	2%	14%	35%	49%
バスツアー代金	1%	5%	22%	35%	37%
観光場所の滞在時間	1%	4%	16%	38%	40%
バスによる移動時間	1%	2%	14%	36%	47%
ガイドや店員の対応	0%	1%	11%	35%	52%
昼食の量	1%	1%	15%	39%	45%
昼食の質	1%	1%	15%	39%	45%
観光場所の雰囲気	0%	0%	5%	34%	61%

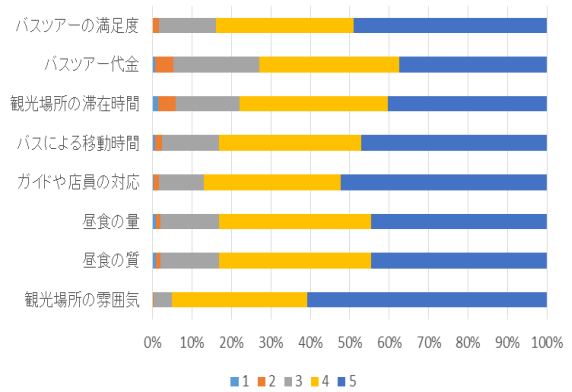


図-1 オプションツアーによる満足度調査の結果

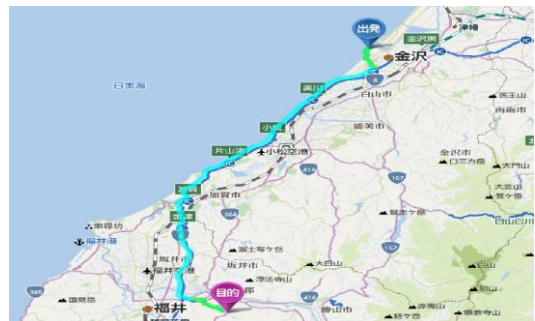


図-2 金沢港から永平寺までの経路

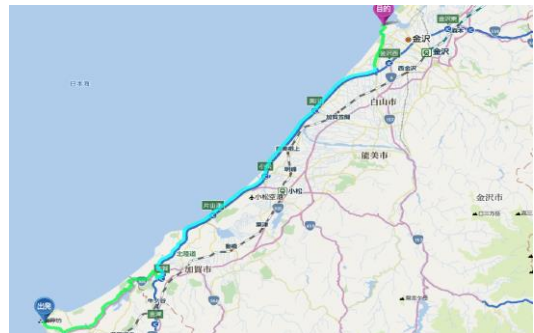


図-3 東尋坊から金沢港までの経路



図4 金沢港から永平寺までのGPSロガーを用いた速度変化状況



図5 東尋坊から金沢港までのGPSロガーを用いた速度変化状況

3. オプショナル・バスツアーの余裕見積り時間の設定に関する分析について

次に実際にオプション・バスツアーのツアー時間について分析を行ってみた。バスツアーの主催者はどれ程の余裕時間を見積もって移動時間や観光時間を設定しているのかを調査してみた。調査の対象としたツアーは図-6、図-7の示す通りである。また実際にかかる時間というのは、移動時間はルート検索サイトを用いて、観光時間の方は観光地の公式のホームページより平均所要時間を用いて算出した。その結果多い所では30分以上も移動時間に対して余裕時間を見積もっている事が分かった。つまりもう1ヶ所観光地を増やしたりや、昼食時間を延長したりすることが出来るということが分かった。

4. まとめと今後の課題

今後の課題として現状では日本のバスツアーは移動時間に対して多めに余裕見積り時間を取っていることが分かった。今後は余裕見積り時間の最適化問題が焦点になってくるのではないと思われる。そうすることにより利用者の満足度も上昇すると思われる。

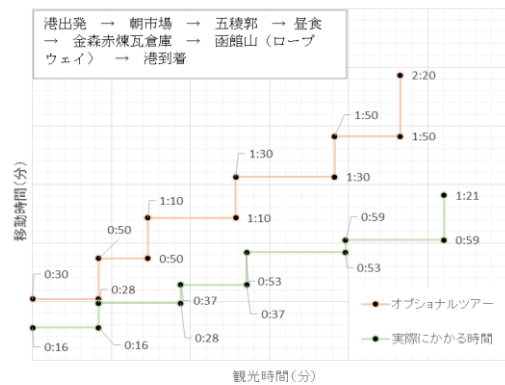


図-6 函館港によるバスツアーの余裕見積り時間

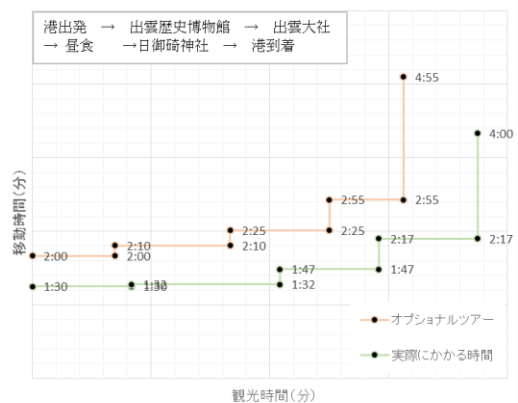


図-7 境港によるバスツアーの余裕見積り時間

SMOOTHNESS OF THE OPTIONAL BUS TOUR FOR CRUISE PASSENGERS

Kota MIYAUCHI and Kazuyuki TAKADA

Nowadays, cruise boom is spreading to Asian countries. It is expected that call of port of cruise ship activate the regional economy around the port. On the other hand, cruise liner usually sells an excursion as an optional tour and many cruise passengers participate in the tour. Since the departure time of the cruise ship is decided, the punctuality of the arrival at the port is strictly required. Therefore, it is thought that buffer time for travel is longer and that the length of stay at a sightseeing site is shorter.

Therefore, in this study, the itineraries of the optional tour and general sightseeing tour were compared and also the smoothness of the travel was examined by using GPS data.